

ぜひ
ご参加を

今後の市民医療講座のお知らせ

1 みんなで知ろう!認知症のこと～レビー小体型認知症編～
 講師:森谷真之(神経内科主任部長) 岡山友佳(認知症看護認定看護師)
 ・10月21日(土)13:00～14:00 ・箕面市立病院 いろはホール

2 徹底除菌ピロリ菌～やさしい胃がんの話
 講師:山本慧(外科医師)
 ・11月11日(土)13:30～14:30 ・船場生涯学習センター

3 ～いつまでも美しく～ 下肢静脈瘤治療・乳房再建
 講師:日名香菜子(形成外科医師) 橋本まり子(形成外科医師)
 ・11月26日(日)10:00～11:15 ・箕面市立病院 いろはホール

4 がんになっても私らしく生きる
 講師:西原彰浩(消化器内科部長)
 千里中央病院 ホスピス 前田一石医師
 かすがいクリニック 小原一憲医師
 ・12月9日(土)14:00～15:30
 ・船場生涯学習センター

5 婦人科疾患について(仮)
 講師:産婦人科医師
 ・1月20日(土)
 (時間・場所未定)

※タイトル、内容については変更になることがあります。

より
安全に

輸血機能評価認定制度(I&A制度)認定施設に認定されました



日本輸血・細胞治療学会が実施する輸血機能評価認定(I&A制度)を2023年8月16日付で取得しました。

I&Aとは、inspection(点検)とaccreditation(認証)するシステムで、安全で有効な輸血療法を実施する上で適切な輸血管理が行われているか否かを第三者(I&A制度視察員)が点検し、認証する制度です。

認定事項および重要事項について審査を受け、「定められた基準を満たし手順に従い安全で適正な輸血療法を実施している」と認められ、この度認定証が届きました。今後も、より安全で有効な輸血療法を維持し続けることをめざします。

中学生に

がん教育を実施しました

7月10日(月)に彩都の丘学園中学校にて、当院泌尿器科の野井医師と緩和ケア認定看護師の加藤看護師が、中学3年生約110名に向けてがん教育を行いました。

野井医師からは、がんの仕組みや最新治療法、予防や検診の大切さについて、加藤看護師からは、緩和ケアについてや、当院での取り組みについてお伝えしました。

事後アンケートでは「がんについて考えるきっかけになった」「がんに対する考え方が変わった」「がんにならないために

生活習慣を改めようと思った」「家族に検診を勧めたい」「身近な人ががんになったら支えようと思った」などの感想をいただきました。



がん教育の実施にあたり、がんに関わる医療従事者などの講師を活用し、がんの正しい知識やがん患者・経験者の声を伝えることが重要とされています。今後も当院はがん診療連携拠点病院として、健康と命の大切さ、「がん」の正しい知識を発信できるよう「がん教育」の取り組みを行っています。

箕面市立病院だより



2023.10 No.41

「下肢静脈瘤治療」は形成外科へ



足が痛い・だるい
ボコボコ血管!?



「下肢静脈瘤」 身体に優しいカテーテル治療を行っています

下肢静脈瘤とは、足の皮膚の下を走る血管が、こぶのように膨らんで浮き出て、ぐねぐねと曲がった状態になる病気です。

その他にも足が痛い、だるい、むくむ、つる等の症状があります。

原因は足の静脈弁が壊れてしまい、血液をきちんと心臓まで送り返せなくなるために生じるものです。

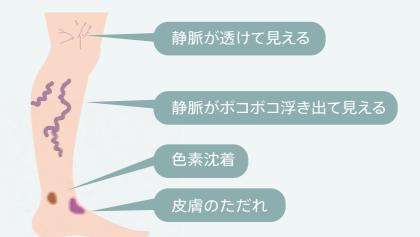
治療には、原因となった静脈を取り除く方法と、静脈を塞いで血液の逆流を防ぐ方法があります。

当院の形成外科では、より身体への負担が少なく優しい、静脈を内側から焼いて塞ぐ、カテーテル治療(血管内焼灼術)を積極的に行っています。

ご自身の足にこんな症状はありませんか?



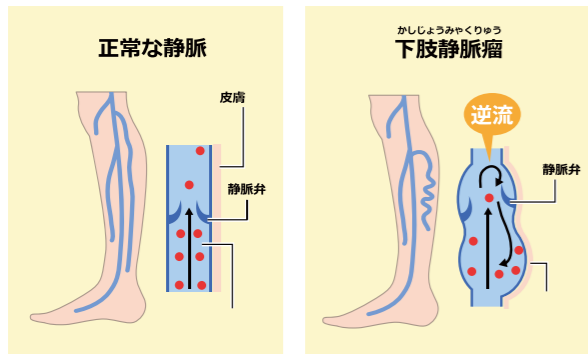
下肢静脈瘤



下肢静脈瘤 なぜ静脈瘤になるの？

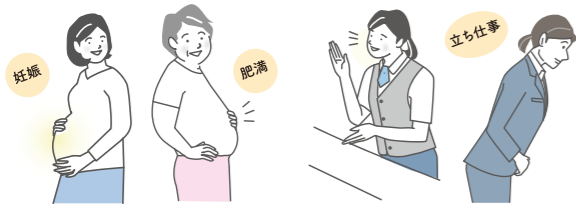
足の静脈は、重力に逆らって血液を心臓に返す機能を担っており、血液の逆流防止のための弁があります。何らかの原因でこの弁が壊れてしまうと、血液が静脈内にたまり、静脈の壁が徐々に引き延ばされて、太く曲がりくねった状態となります。汚れた血液が足にたまることで、足のむくみやだる重という慢性的な症状を引き起こし、さまざまな皮膚疾患の原因になります。

症状が進行してしまうと、慢性的な炎症から皮膚が黒ずんで硬くなり、やがてただれて治りにくい傷になります。糖尿病などの合併症を持つ人では、命取りになってしまう可能性もありますので、早めの治療が大切です。



下肢静脈瘤は静脈弁が遺伝的に弱い方や、長年立ちっぱなしのお仕事(美容師・調理師・販売員など)をされてきた方、妊娠出産歴のある方、肥満の方などに起こりやすい傾向があります。

高齢者や女性に多い病気で、日本では10人に1人が静脈瘤と言われています。



下肢静脈瘤 治療前



下肢静脈瘤 治療後



下肢静脈瘤 身体に優しいカテーテル治療

●血管内高周波治療

(原因血管を塞いで逆流を防ぐ方法 手術時間:約60分)

傷んだ静脈の中に細い管(カテーテル)を通し、レーザー光線や高周波で内側から熱を加えることにより静脈を縮ませて血液が流れないよう静脈を内側から閉じる治療です。局所麻酔により細い針を刺すだけで治療でき、手術時間も約60分と短く、痛みや内出血を抑えることができ、身体への負担が少ない優しい治療です。

当院では、形成外科専門医及び下肢静脈瘤に対するカテーテル治療(血管内焼灼術)の実施資格を取得している医師が診察・治療を行い、健康保険にも適用しています。



高周波治療器

メリット

静脈瘤のある静脈を取り除く「ストリッピング手術」と比較して

- 術後の痛みや出血が少ない。
- 入院期間が短い。(日帰りから2泊3日程度)
- 傷あとがほとんど残らない。
- 合併症や再発の頻度が少ない。
- 術後安静が短く日常生活に早く戻れる。



医師は、静脈エコー(超音波診断装置)で逆流静脈を検査し、症状等から診断し、治療方針を立てます。

当院の静脈瘤の診療を希望される場合は、まずはお近くのかかりつけ医に静脈瘤外来(金曜午後)への紹介状を作成してもらってください。



当院の形成外科について

主な診療内容

- ◎ 皮膚のできもの手術
- ◎ ケガの縫合、傷あとの修正
- ◎ 顔の骨折手術
- ◎ 悪性腫瘍切除後の再建(乳房再建など)
- ◎ 治りにくい傷の治療など

形成外科は、体の表面のできものや外傷、ケガや手術による変形・欠損などに対して、手術を中心にさまざまな治療方法を駆使して機能や見た目を改善することによって、患者さんの生活の質(=Quality of Life)の向上をめざす診療科です。

当院では4名の形成外科医で年間600件以上の手術を行っています。皮膚腫瘍、皮膚がん、眼瞼下垂、下肢静脈瘤などを中心に、病気をしっかり治すことはもちろん、見た目もきれいに治すことをめざして丁寧な手術を心がけています。リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合手術も開始しました。

形成外科単独で行う手術だけではなく、乳がんにより乳房切除術を受けた方の乳房再建など他の診療科の先生方と連携してチーム医療も行っています。

桑江 克樹 主任部長

モットー「一隅灯明」

患者さんへのメッセージ:画一的な手術・治療を押しつけるのではなく、患者さんの病状・生活環境などを考慮して最善と思われる手術・治療方法を提示しますので、メリットとデメリットを考えて治療法を選択いただき、一緒に治療に臨みましょう。

田中 宏樹 医員

モットー「人にやさしくいつも笑顔で」
患者さんへのメッセージ:みなさんに頼られるような形成外科医になれるようがんばります。

日名 香菜子 医員

モットー「真善美」

患者さんへのメッセージ:常に、ひとつひとつの手術について、真剣に考え、技術向上に努めています。礼節を保ち、どのようなときも平常心でいることで、信頼を築くように心がけています。

当院形成外科の医師のご紹介



橋本 まり子 医員

モットー「解衣推食」

患者さんへのメッセージ:乳房再建は治療法が多岐にわたります。女性ならではの視点、経験を生かして患者さんに最も適した治療を提案させていただきます。傷あとは残るものですが、より綺麗な状態に仕上げるように心がけています。

進化を続ける

乳房再建について

乳がんに対し乳房切除術を受けた方を対象に乳房の再建を行います。保険適用の手術を行っており、手術の方法、治療時期について患者さんと乳腺外科主治医と相談し、もっとも適した方法を提案します。

乳がんの手術と同時に再建を行う場合(一次再建)と乳がんの手術後落ち着いてから再建を行う場合(二次再建)があり、再建方法は大きく分けて人工物(シリコンインプラント)と自家組織(広背筋皮弁、腹部皮弁)に分けられます。それぞれ

にメリット、デメリットがあり、治療の選択肢は多様になりますが、外来通院、入院中を含め責任を持って治療を担当させていただきます。

また、当院では、2021年より自家脂肪注入も補助療法として開始しており、見た目をきれいにすることはもちろん、機能性も改善できるよう治療に励んでおります。

再建例
自家組織による

